

紀谷総領事よりご挨拶

本文章は、紀谷元総領事の在任中(2019年10月～2022年9月)、「総領事からのメッセージ」https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/about_consul_generals_message.htmlとして、当総領事館のウェブサイトに掲載されていたものです。



このたび在シドニー総領事に就任した紀谷 昌彦（きや まさひこ）と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

現在、日本と豪州の関係は、政治、経済、文化などあらゆる面で、かつてないほど
深化しています。その中でも、当総領事館が管轄するニュー・サウス・ウェールズ州
と北部準州は、とりわけ日本との強い結びつきを持っています。

安倍総理は2017年1月にシドニーを訪問され、さらに2018年11月に日本の内閣総
理大臣として初めてダーウィンを訪問されました。ダーウィンでは、日豪首脳が戦没
者慰霊碑を訪問し、戦後の日豪間の和解の速さを強調しました。日豪両国は「特別な
戦略的パートナーシップ」の関係にあるとともに、「自由で開かれたインド太平洋」
のビジョンを共有しています。

経済面では、ニュー・サウス・ウェールズ州にとって日本は同州の輸出先国として
ナンバー1であり、貿易全体でも日本は世界第2位の地位を占めています。良好な日

豪関係を背景に、180を超える日本企業がシドニーに拠点を設けており、活発なビジネス活動が展開されています。本年10月に大阪で開催された日豪経済合同委員会会議では、豪州で第3の経済規模を有する地域である西シドニーの開発が大きく取り上げられました。また北部準州においても、日本企業による史上最大規模の海外投資である「イクシス LNG プロジェクト」がダーウィンで展開されており、地域の中核的な産業となっています。

日本文化への関心もますます高まっており、シドニーやダーウィンなどで数多くの日本祭りが開催されています。長年の交流を通じた姉妹都市関係も42を数えます。また、豪州は人口あたりの日本語学習者数が世界一の国でもあり、日本文化は豪州に深く根ざしています。スポーツ大国豪州との間では、現在開催中のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会、2021年の関西ワールドマスターズゲームズをはじめとするスポーツ交流も盛んです。本年12月にはシドニー・札幌間での季節運航の直行便も開始されます。スキー人気や和食ブームと相まって、人の往来は今後ますます活発になるでしょう。

総領事館としては、当地の3万人以上の在留邦人をはじめ、旅行者を含めたあらゆる日本国民の皆様の安全・安心を確保することが最も重要な役割です。また、当館の領事窓口が皆様にとって快適で便利なものとなるよう、引き続き取り組んで参ります。

これから、日本企業・在留邦人の皆様、そして日本と関係の深い豪州企業・団体の皆様と一緒に、ニュー・サウス・ウェールズ州と北部準州から、日豪関係をあらゆる面で盛り上げて参りたいと考えています。いつでも気軽に相談いただける「開かれた総領事館」として、世界に誇れる取組を皆様と一緒に進めることができれば幸いです。ご意見とご支援を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

令和元年10月17日

在シドニー日本国総領事

紀谷 昌彦